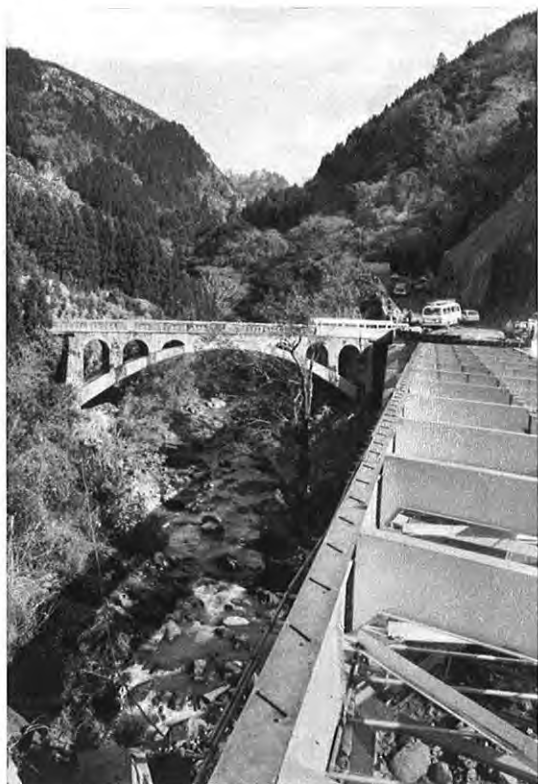


# 保護された原生林



## 建設進む菊池～阿蘇スカイライン

▲二号橋の架設地点をおよそ200m下流に移したことで写真の原生林は救われた



▶念仏橋のかけかえ工事

菊池～阿蘇スカイラインの建設が、ことし十月一日オープンをめざして急ピッチで進められています。この路線は城北開発横断道路の一部をなすもので、現在建設中の有料区間は菊池市大字原から阿蘇町大字西湯浦までの十一・七km。観光、産業両面で、文字通り城北地区の開発に役立てようと四十五年十一月に着工。以来、多くの難工事もほぼ終わり、現在八割程度の進捗率です。事業費はおよそ十九億円。

ところで、菊池渓谷といえば夏のキャンプ、秋の紅葉で賑わいを見せる場所ですが、一月末のひっそりとした渓谷には、人を圧するような静けさと、春を待つ自然のひそやかな息吹が感じられました。

## 物価を考える

佐藤 静



### 物価の足どり

最近、物価に対する関心が一段と高まってきた。暮らしに直接響く事柄であるだけに、当然といえよそれまでだが、よいことだと思おう。

物価をみる場合、消費者物価と卸売物価の両面で捕えることができる。そこで、昭和四十年から四十六年までの両者の年平均上昇率をみると、消費者物価が五・六％とかなり高いのに対し、卸売物価は一・六％と比較的安定していた。世界各国とも両者が同様に上昇している中で、日本のこうした動きは珍しいものであったといえる。

日本経済の高度成長に伴い、卸売物価の主要構成目である大企業製品の生産性が向上し、大幅な賃上げにもかかわらず、製品価格はそれほど引き上げられなかった反面、消費者物価を主として構成

している中小企業製品、農林漁業産品、サービスなどの分野では、賃金こそ上昇したものの、生産性はさして向上せず、いきおい価格を引き上げざるを得なかった、というのがその原因である。その意味では、消費者物価の上昇も高度成長が招いたひずみの一つと言ってよい。

### 最近における卸売物価の急騰

しかし昨年の春以降、それまで落ち着いた卸売物価も、上昇が目立つようになってきた。とくに八月以降の上昇は著しく、十一月には二・三％も急騰し、年初来の上昇率は六％にも達してしまっ

た。その理由はいろいろある。内外の需給逼迫から木材が暴騰したほか、鉄鋼のように不況カルテルで供給が抑制されていたり、原毛、原皮、原油などのように国際相場が上昇したりしたために、値段が上ったものも少なくない。しかし、基本的には、景気の回復、好況に伴って全体としての需要が次第に増大している事実が、背景にあることも忘れてはならないところである。

このところ消費者物価の上昇は、野菜や果物の出回り増加により、年初来四％台とやや落ち着いているが、卸売物価の上昇はやがて消費者物価を押し上げずにはおかないだけに、その先き行きは決して楽観は許されない。

### 物価上昇は世界的な大問題

日本ばかりではない。世界各国とも物

価上昇は急テンポである。昨年十月の消費者物価を一年前と比べると、もっとも低い米国の三％台を別として、英国、イタリアで七％以上、西ドイツ、フランスで六％台の大幅な上昇となっている。この原因が、高い賃上げにあることは言うまでもなく、今では一〇％台の賃上げ率は日本だけのものではなくってしまっ

た。これには各国とも一番頭を悩ませ、真剣にその対策に取組んでいる。従来から多くの国で、物価、賃金、利潤を規制する緩急さまざまな所得政策を実施してきたが、国際通貨情勢が落着きを取戻している最近では、相次いでインフレ抑制を旗印に掲げ、所得政策を強化するともに、財政、金融も引締めめに転換している。そればかりでなく、インフレ撲滅には国際的な共同歩調が必要となるから、E.E.C.（欧州共同市場）加盟国の間では、共通インフレ対策が打出されているほどである。

### 物価上昇を抑えるには

物価の上昇は何としても抑えなければならぬ。最近顕著になっている地価の高騰などもからんで、インフレムードが広く浸透するようになっては大変である。物価の安定こそ、福祉社会建設の大前提であるといつて過言ではないからである。

しかし物価対策には残念ながら決め手がない。やはり個別的、総合的な諸対策を地道に進めることが大切である。当

個別的な対策としては、不況カルテルなど供給制限の撤廃や、流通部門の合理化を実現すべきであろうし、輸入自由化や割当枠の拡大、輸入関税の引き下げも効果的であろう。幸い第三次円対策にはこれらの項目が織り込まれているが、物価対策の面からも、ぜひ強力にその実行を推進して欲しいものである。

同時に、総需要面での対策も重要である。とくに景気の拡大、財政の大型化が見込まれる折柄、民間、公共両部門の需要をどう調整するか、また水準を高めて通貨供給量をいかに抑えるか、円問題を抱えているだけに、非常に困難な問題であるが、十分工夫をこらしていかなければならない。これに関連して、本年の春闘の動向も大いに注目されるが、労使双方の節度ある態度に期待したいものだと思う。

### 暮らしの心構え

もちろん、われわれとしても物価上昇に対し、暮らしを守る心構えを確立する必要がある。このためには、生活を計画化し、合理化することからまず始めるべきではないだろうか。一人一人の力は小さくとも、こうして全国民が力を合わせれば、これに勝る物価抑制策はないと言えるのである。（前日銀熊本支店長）

お詫び。  
前号の「統計でみる熊本県の体質」をお書きいただきました山崎良也先生を熊本法文学部教授としておりますが、これは、教養部教授の誤りでした。訂正してお詫びします。